

清たんの足・・・下荒井地区

清明地区の中間あたりに八幡神社があります。

玉の江が埋め立てられて北陸道が南北に通じるようになると、八幡神社のあたりは、人通りも増え、茶屋もでき、上り下りの人々の別れと迎えの場所としてにぎわいました。そんな神社の南側に小さな祠があり、その前に不思議な石が置かれています。「いしずり石」といいます。石はしゃく谷石で、中がへこんでいます。

むかし、この石は、子供たちがくぼみのまわりを手に持った石でこすって（いしずりと言う）遊んでいたもので、たくさんのみぞができています。

この大きな石はもともと何だったのでしょね。

